

久留米市(福岡県)の一体的実施

平成24年4月2日事業開始

「久留米市ジョブプラザ」を共同で運営し、長期離職者を含む求職者を対象として、就労・生活支援に関する個別相談(市)と職業相談・職業紹介を行うハローワーク(国)による一体的支援等を実施

久留米市

長期離職者をはじめとする求職者への就労・生活支援

① 事業内容

〈久留米市〉

- ・個別カウンセリング
- ・就労支援イベント(合同会社説明会、就労支援セミナー)等の実施
- ・就労・生活に関する相談
- ・住宅相談や生活福祉資金貸付等の市窓口への案内

〈ハローワーク〉

- ・専用パソコンによる求人情報の提供、職業相談、職業紹介の実施

② 協定・事業計画

- ・久留米市長と久留米公共職業安定所長の間で協定(*)を締結
- ・数値目標を盛り込んだ事業計画を久留米市と久留米公共職業安定所の間で策定

(*)協定の実施等について相互に要望することができ、出された要望には誠実に対応する旨を規定

③ 運営協議会

- ・久留米市、久留米公共職業安定所で構成される運営協議会を設置



国

職業紹介・職業相談の実施等



久留米市が行う就労支援事業とハローワークの職業相談・職業紹介業務をワンストップで実施。

(1) 実施体制

久留米市

- ・就労サポーター 1名
- ・キャリアコンサルタント(福岡県出張相談) 1~2名

ハローワーク

- ・職員(再任用短時間) 1名
- ・就職支援ナビゲーター 1名
- ・職業相談員 2名 計4名

※求人情報提供端末5台、職員用端末3台

(2) 事業目標と取組状況

| | 25年度事業目標 | 取組状況(26年1月末時点) |
|----------------------|-----------------------------|-------------------------|
| 生活関連の支援を必要とする求職者への支援 | ◇ 利用者 17,200人以上 | ◇ 計 14,904人 |
| | 24年度事業目標 ◇ 利用者 15,000人以上 | 24年度取組状況 ◇ 計 18,565人 |
| | ◇ 就職者 390人以上 | ◇ 計 354人 |
| | 24年度事業目標 ◇ 就職者 300人以上 | 24年度取組状況 ◇ 計 405人 |

一体的実施事業による就職成功例

男性：45歳 希望職種：経理事務

○ 来所に至った経緯など

・生活保護受給者。就職を希望するもヘルニア（首）手術の後遺症による体調不良で不調が続いていた。

① 抱える課題

・心身共に不安定。プライドが高く人の話を聞くのが苦手。

② 支援内容・ポイント・経過

不安感からか、とにかく強気で多弁。まずは体調が落ち着くまで相談時に十分な話を聞き、再就職への問題を把握した。数か月後には表情も穏やかで会話も成り立つようになり、後遺症（痺れ等）も収まってきた様子。

初期に比べ相談の後期は、履歴書、職務経歴書の内容が充実してきた。

③ 結果

・大手ラーメンチェーン本社に正社員（経理事務）採用
※支援期間 11か月

○ 就職支援ナビゲーターの所感

実務も管理職経験もある方だったので、初期段階では話を聞く事に重きを置き、心身共に落ち着いた頃に具体的な支援を進めた事が再就職に結びついたのでは。

○ 本人のコメント（採用の報告に来所時）

行政機関にありがちな「事務的で事無かれ主義な対応」ではなく国と自治体の一体的なバックアップに驚きと感動を覚えた。

女性：74歳 希望職種：介護関係

○ 来所に至った経緯など

・知人の会社に（介護施設の事務と現場）勤務していたが事業所が閉鎖。遺族年金だけでは生活できない。

① 抱える課題

・介護関係の経験は豊富で健康体だが、74歳という高齢。

② 支援内容・ポイント・経過

人柄、経験、健康状態等は問題ないと感じたので、本人が苦手とする応募書類作成と面接対策を重点的に、高齢者なりのアピールポイントやコツを加えサポート。

紹介時担当者に年齢を伝えた時点で絶句されたが、経験、人柄、ヤル気等を懸命に伝え「とりあえず会ってみましょう」との返事を頂いた。

③ 結果

・障害者施設に正社員（施設事務）採用
※支援期間 1日

○ 就職支援ナビゲーターの所感

高齢者で2時間程のサポートだったにも係わらず最初の面接で就職に繋がった珍しいケース。呑み込みが早い方で、サポートも全て噛み合い、本番面接も予想された内容だった。

○ 本人のコメント（採用報告の電話）

生活保護の申請を考えていたが、まさかこの年齢で最初の面接で採用になるとは夢みたい。皆様に本当に感謝します。

「久留米市ジョブプラザ」を核とした就労支援の推進について



久留米市長 檜原利則

久留米市は、市政運営方針「中期ビジョン」において5つの重点政策のひとつとして「農・商・工業の元気づくり」を掲げ、地域産業の再生・活性化による経済活力の向上を図るため、中小企業への振興策の充実を図るとともに、新産業の創出や企業誘致による雇用の創出・確保に取り組んでいるところです。

平成20年秋のいわゆるリーマンショック後、急速に悪化した雇用情勢に対応するため、翌年2月には緊急雇用相談窓口を市庁舎内に設置し、いち早く、市民からの離職・再就職等への相談対応を始めました。

同年7月には、ジョブプラザの前身である求職者総合支援センターを立ち上げ、国による職業紹介と併せて市の就労・生活相談事業に一体的に取り組んできました。

そうした中、国のアクションプラン採択を受けて「久留米市ジョブプラザ」が平成24年4月にスタートしたわけですが、ジョブプラザに来所された求職者がハローワーク窓口から職業紹介を受けた後、続けて市の相談窓口で就労サポーターから応募書類の書き方について支援を受けたり、自らの適職について就労サポーターに相談した方が、アドバイスに基づいてハローワークで紹介状をもらうなど、一体的実施に基づく連携した取組が行われています。

平成24年度は、年間で約1万8千人の市民にご利用いただき成果を上げていることから、今後とも、一体的実施のメリットを活かして国と効果的な連携を図りながら、ジョブプラザの機能を最大限に発揮しつつ、一人でも多くの方が就職できるよう、取り組んでまいります。